

発掘調査報告第22集

# 辻沢南遺跡

「馬住ヶ原工業団地及び馬住ヶ原公園造成事業」に先立つ試掘調査

1986.3

駒ヶ根市土地開発公社

駒ヶ根市教育委員会

発掘調査報告第22集

# 辻沢南遺跡

「馬住ヶ原工業団地及び馬住ヶ原公園造成事業」に先立つ試掘調査

1986.3

駒ヶ根市土地開発公社

駒ヶ根市教育委員会

## 序 文

今回ここに刊行の運びとなりました報告書は「馬住ヶ原工業団地及び馬住ヶ原公園造成事業」に先立つ辻沢南遺跡試掘調査の報告書であります。

辻沢遺跡に関しては、大正十五年三月発行の「先史及原史時代の上伊那」（鳥居龍藏博士著）に「辻沢遺跡」（現在の「辻沢北遺跡」）が紹介され、縄文時代の「土器・打製石斧」が発見されています。

これ以後としては、昭和 28 年に「馬住の原」遺跡（現在の「辻沢南遺跡」）で、「縄文時代後期の土器片・石器、土師器」が採集され、さらに、「辻沢北・辻沢南」両遺跡において、「辻沢遺跡群研究会」によります 7 回を越える調査が行われ、15 軒（内、辻沢南遺跡より 7 軒の縄文時代中期の住居跡と推定）の住居跡が発見されています。

今年度におきましては、駒ヶ根市土地開発公社の委託により、馬住ヶ原グランド（仮称）の建設予定地を中心に、約 18,000 m<sup>2</sup>内の試掘調査を実施しました。試掘調査の経過及び成果につきましては、本文を御参照願います。

試掘調査準備から調査実施に至りましては、調査をご指導下さいました友野良一団長を初め北澤雄喜会長をはじめとする「辻沢遺跡群研究会」の方々、快く作業に参加していただきました地元の方々、地主の方々等、多くの皆様のご協力のご厚意によりまして所期の目的を達成することができました。

ここに関係者の皆様方に心から感謝申し上げますとともに、この報告書が、今後の地域史研究及び辻沢遺跡群の研究等の一助となることを念願する次第であります。

昭和 61 年 3 月 29 日

駒ヶ根市教育長 木 下 衛

# 例 言

本報告書は、駒ヶ根市土地開発公社の委託を受け、昭和60年11月20日から12月21日にかけて実施した辻沢南遺跡試掘調査報告書であります。

## 1. 辻沢南遺跡試掘調査の構成

- 1) 遺 跡 名 辻沢南遺跡
- 2) 所 在 地 長野県駒ヶ根市赤穂福岡 14-288、293、304、305
- 3) 調 査 原 因 昭和61年度以降において、馬住ヶ原工業団地及び馬住ヶ原公園造成事業により、当該遺跡が変貌する可能性がある為、事業に先立ち昭和60年度に試掘調査を実施。
- 4) 調査委託者 駒ヶ根市土地開発公社 理事長 竹村健一
- 5) 調査受託者 駒ヶ根市埋蔵文化財発掘調査会 会長 木下 衛
- 6) 調 査 主 体 駒ヶ根市教育委員会を中心とした駒ヶ根市埋蔵文化財発掘調査会
- 7) 調 査 期 間 試掘調査 昭和60年11月20日～12月21日  
整 理 昭和61年1月9日～昭和61年3月29日
- 8) 調 査 方 法 2m×2mのグリッド方式
- 9) 調 査 面 積 554㎡

## 2. 試掘調査・整理及び報告書作成業務内容

- 1) グリッド断面の写真撮影は小原晃一が、同断面実測は小原、中村文夫が行なった。
- 2) 遺跡の遺構・遺物の写真撮影は小原晃一が行った。
- 3) 遺物の洗浄は、小町谷春子が、注記作業及び拓本は、小林さな恵・峯田美智子・新井紀和が、遺物の復原は西村彦久が行った。
- 4) 遺物の実測は、小原が、遺物及び遺構図のトレースは小原が行った。
- 5) 原稿の執筆は、小原晃一が担当し、文末に明記してある。
- 6) 試掘調査準備及び実施の中で、グリッド設定、地形測量、グリッド位置図の作成については、(有)伊南測量設計事務所に委託した。
- 7) 本遺跡の出土品及び諸記録・図面等は、市立駒ヶ根博物館が保管している。

## 3. 本報告書の内容

- 1) 遺跡遺物関係等の図面の縮尺については、その都度明示してある。
- 2) グリッド断面層位は、その都度明示してある。
- 3) 掲載遺物は一部であり、無掲載の遺物については、文章及び表示する。
- 4) 本書は、調査による遺構・遺物の図示に重点をおき、文章記述は簡便とした。

# 目 次

## 序 文 例 言 目 次

第 I 章 試掘調査経緯	1
第 1 節 試掘調査に至るまでの経過	1
第 2 節 調査会の組織	1・2
第 3 節 試掘調査作業経過	2～4
第 II 章 遺跡の環境	5
第 1 節 位置及び地形・地質	5
第 2 節 歴史的環境	5
第 III 章 試掘調査概要	9
第 1 節 調査概要	9
第 IV 章 出土遺構及び遺物について	10
第 1 節 遺構について	10
第 2 節 遺物について	10
第 V 章 総括	15

## 図 版 目 次

## 写 真 目 次

第 1 図 辻沢南遺跡位置図及び周辺遺跡分布図	写真 I 辻沢南遺跡近景
第 2 図 辻沢遺跡群分布図	写真 II 辻沢南遺跡近景
第 3 図 辻沢南遺跡試掘調査主要グリッド位置図	写真 III 辻沢南試掘調査風景
第 4 図 試掘調査グリッド出土主要遺物実測図 I	写真 IV 試掘調査主要グリッド断面 1
第 5 図 試掘調査グリッド出土主要遺物実測図 2	写真 V 試掘調査主要グリッド断面 2
第 6 図 試掘調査主要グリッド断面図 1	写真 VI 試掘調査主要グリッド断面 3
第 7 図 試掘調査主要グリッド断面図 2	写真 VII 試掘調査主要グリッド断面 4
第 8 図 試掘調査主要グリッド断面図 3	写真 VIII 試掘調査主要グリッド断面 5
陳 情 書	写真 IX 辻沢南遺跡主要グリッド出土遺物 1
辻沢遺跡群出土遺構遺物一覧	写真 X 辻沢南遺跡主要グリッド出土遺物 2
試掘調査主要グリッド一覧表	写真 IX 辻沢南遺跡主要グリッド出土遺物 3

# 第 I 章 試掘調査経緯

## 第 1 節 試掘調査に至るまでの経過

昭和 58 年 4 月段階において、地元関係者から「馬住ヶ原に酪農経営不振による負債整理の為、売却可能な農地がある」との情報を市が受け、関係機関・関係各課において、「公共施設用地」として活用し、救済する方向で検討がなされ始めた。

昭和 59 年 8 月に、「馬住ヶ原工業団地造成計画策定会議」が開かれ、経過及び造成計画、造成対象地区図面が掲示された。

一方、昭和 28 年以降、福岡辻沢周辺の遺跡の研究を続けてこられた「辻沢遺跡群研究会」(代表、北沢雄喜)から市長・議会・教育委員会等に対して、昭和 59 年 8 月 30 日付で「陳情書」が提出され(別紙原文参照)、馬住ヶ原地籍における遺跡群と自然環境の保護について明確な提示がなされた。

これ以後、市土地開発公社及び商工観光課等関係各課や「辻沢遺跡群研究会」と連絡協議を行う中で、開発に先立ち、馬住ヶ原一辻沢南遺跡の実体と性格を把握する為に、「試掘調査」を実施することとなった。市土地開発公社より委託を受け、駒ヶ根市埋蔵文化財発掘調査会が主体となり、日本考古学協会々員友野良一氏を団長をお願いし、辻沢南遺跡試掘調査団を編成し、調査費 215 万円(1 月 30 日付で 180 万円に変更契約)、調査面積約 24,000 ㎡であった。

この間の事務手続きは、昭和 60 年 11 月 1 日付一埋蔵文化財包蔵地辻沢南遺跡発掘(試掘)調査通知の提出、同年 11 月 13 日付一駒ヶ根市土地開発公社理事長竹村健一と駒ヶ根市埋蔵文化財発掘調査会々長木下衛との間で「辻沢南遺跡(馬住ヶ原)試掘調査」委託契約の締結をおこない、11 月 20 日より、試掘調査を開始した。

## 第 2 節 調査会の組織(駒ヶ根市埋蔵文化財発掘調査会)

顧問	鈴木 義 昭	(駒ヶ根市教育委員長)
会長	木 下 衛	(駒ヶ根市教育長)
理事	小 池 金 義	(駒ヶ根市教育次長)〈会長職務代理〉
”	友 野 良 一	(駒ヶ根市文化財審議会会長)
”	松 村 義 也	( ” 副会長)
”	林 起	( ” 委員)
”	竹 村 進	( ” 委員)

〃	中山 敬 及	( 〃 委員)
〃	下村 幸 雄	(駒ヶ根市立駒ヶ根博物館長)
監 事	北 沢 晋 六	(駒ヶ根郷土研究会会長)
〃	宮 下 恒 男	(駒ヶ根市収入役)
幹 事	北 沢 吉 三	(駒ヶ根市教育委員会社会教育係長)
〃	原 茂	( 〃 社会教育主任)
〃	野々村 はるゑ	(駒ヶ根市立駒ヶ根博物館)
〃	齊 藤 香 代	( 〃 )
〃	石 澤 真 一	( 〃 )
〃	小 原 晃 一	( 〃 )

●辻沢南遺跡発掘調査団 (事務所 駒ヶ根市上穂南2番15号 市立駒ヶ根博物館内)

団 長	友 野 良 一	(日本考古学協会会員) <発掘担当者>
調 査 主 任	小 原 晃 一	(長野県考古学会会員) < 〃 >
調 査 員	小町谷 元	(上伊那考古学会会員)

作 業 員 倉田義男、今井光男、大蔵幸達、小沢りつ子、山本千里、西村きくこ、山本フサエ、小林いちゑ、桜井栄子、中村文夫、渋谷吉子、下平チカエ、林 吉十、小町谷春子、小林さな恵、峯田美智子、新井紀和、西村彦久

協 力 者 辻沢遺跡群研究会、市都市計画課、(有)伊南測量設計事務所、酒井 義、西沢俊二、北沢利明、青木辰美、西村功

見 学 者 市企画財政課、南信日々駒ヶ根日報新聞、駒ヶ根有線放送農業協同組合  
<順不同、敬称略>

### 第3節 試掘調査作業経過 (調査口誌)

11月20日(水) 試掘調査器材運搬

11月21日(木) テント設置。D-6・8・10・12、E-6・7・8・、F-6グリッド(以下、Gと称す)を掘下げる。各グリッドの深さは、50~60cmで比較的浅い。F-6Gより縄文時代中期後半の深鉢形土器(口縁部~胴部上半)1/2個体出土。住居跡覆土の可能性が強い。

11月22日(金) E-9・10・11・12・13・14・15G、F-8・10・12・14G、D-12・14掘り下げ。F-12G地表30cmよりピット(柱穴か)と石棒状の花崗岩出土。

- 11月23日(土) D-16 G、E-16・17・18・19 G、F-16・18 G掘り下げ。南にかけてグリッドは徐々に浅くなり深さ50 cm前後でソフトローム層(基盤)が露出する。
- 11月25日(月) D-18・20 G、E-20 G、F-20 G、B-20 G、C-18・19・20 G掘り下げ。H-N-6~12 G(2 m×2 m)設定。B・M(ベンチ・マーク)設定。B・M I、L=688.200 m、B・M II、L=685.600 mとする。
- 11月26日(火) B-14・16 G、C-15・16・17 G、D-16 G掘り下げ。D-6・8 G、E-6・7 G、F-8 G断面写真撮影、実測(S=1/20)。E-8 G、F-6 G断面写真撮影。
- 11月27日(水) B-10・12 G、C-10・11・12・13・14 G、G-6・7 G掘り下げ。G-7 Gより黒曜石塊(長さ12 cm、厚さ6 cm)出土。F-6、E-8 G断面実測。D-10・12 G、E-9・10・12・13・14 G、F-10・12 G断面清掃、写真撮影、断面実測。
- 11月28日(木) G-8、H-6・7・8(7・8中途)、I-6(中途) G掘り下げ。D-6・8・10・12、E-6~12、F-6・8・10 12 G出土遺物袋詰め。E-7・8・12、F-6・8 G出土遺物洗い。
- 11月29日(金) I-6~8、J-6・8、K-6~8、L-6~8、M-6~9、10(中途) G掘り下げ。D-14・16・18、E-15~19、F-14・16・18 G断面写真撮影、実測。市都市計画課より業者委託のボーリング調査場所の打合わせ。
- 11月30日(土) H-10、I-9~11、J-10、K-9~11、L-10、M-11 G掘り下げ。B-18・20、C-18・19・20、D-20、E-20、F-20 G断面清掃、写真撮影、実測。
- 12月2日(月) H-12、I-12 G掘り下げ。C-10~12、B-10・12・14・16・18・20、D-14・16・18・20、E-14~20、F-14・16・18・20 G出土遺物袋詰め。D-10・12、E-7・9、F-8・10 G出土遺物洗い。
- 12月3日(火) G-9~12、H-12、I-12、J-12、K-12、L-12 G掘り下げ。都市計画課ボーリング調査場所下見の為、来訪。
- 12月4日(水) J-14、K-13~18、L-14・16・18、M-12~19 G掘り下げ。業者委託によるボーリング調査開始。〈受調業者、(株)松本さく泉工業〉
- 12月5日(木) G-13~17、H-14・16、I-13・14、J-16・17 G掘り下げ。
- 12月6日(金) G-17・18・20、H-18・20、I-18・19・20、J-18・19・20、K-19・20、L-20 G掘り下げ。
- 12月9日(月) C-7・8・9 G掘り下げ。B-14・16、C-13~17 G断面清掃、写真撮影、断面実測。雪荒れの中の作業で、寒波いよいよ到来。
- 12月10日(火) A'-10~14 トレンチ(以下、Trと称す)、C'-9 G掘り下げ。C'-9 Gより(深さ50 cm前後)石囲炉址検出。住居跡の壁が削られている可能性が高い。B-10・12、C-10・11・12、C'-7・8・9 Gの断面写真撮影、実測。

- 12月11日(水) A'-Tr掘り下げ。住居址状の落ち込みあり。縄文時代中期の土器片多く出土する。G-6・7・8・9・10 G断面清掃、写真撮影、実測。
- 12月12日(木) G-6~10、H-6、I-6、J-6、K-6 G出土遺物袋詰め。H-6、I-6、J-6 G断面清掃、写真撮影、実測。I-7 G断面写真撮影。  
試掘調査参加作業員懇労会(於) 高原荘 >
- 12月14日(土) H-8・10、I-7・8・9・10 G断面清掃、写真撮影、実測。出土遺物袋詰め。雪荒れが激しく、午前中のみ作業。寒風が背身にしみる。
- 12月17日(火) G-16・17・18・19・20、M-16・17・18・19・20 G出土遺物袋詰め。寒さの為、グリッドの壁が凍り、清掃、写真撮影、実測の一連作業が不可能となる。発掘器材片付け。運搬一収納。会計課用度借用テントを返納する。
- 12月20日(金) 数日間の猛寒波も柔らぎ、暖かくなり調査再開。J-8・10・12、K-7~12、L-8・10・12、M-7~12 G断面清掃、写真撮影。J-6、K-6、L-6、M-6 G断面再清掃、写真撮影、実測。一部凍結の為、不明瞭。野狼の群れ出現。
- 12月21日(土) G-13~16、H-14・16、I-13・16、I-14・16、J-13~16、K-14・16、M-13~16 G断面清掃、写真撮影するも、凍結が著しく実測は不可能となる。  
A'-10 Tr清掃、写真撮影。市教委小池次長、松井主任主事来訪。本日にて、寒波の為作業継続が不可能となり試掘調査を終了とする。

約1ヶ月間にわたり、初冬の寒風や冷雨・雪荒れの中で、試掘調査に参加していただいた皆様の御理解と御協力により調査ができましたことに対して心から感謝の意を申し上げます。本当に有り難うございました。

(小原晃一)

#### 陳 情 書

貴職におかれましては、常日頃文化財保護に対し深い御理解と御協力をいただき心から敬意を表します。しかし、その努力にもかかわらず全国的に吹き荒れる開発の嵐の中に、私達人類の祖先が残した貴重な遺産も風前の灯の状態です。埋蔵文化財の宝庫伊那谷も、中央高速道路の建設、農業基本法による基盤整備事業、工場の進出、宅地の造成等その例外ではありません。

私達の住む駒ヶ根市の大地にも急速にその開発の手は伸び、すでにいくつもの埋蔵文化財包蔵地が破壊されました。

駒ヶ根市の南端、舌状台地の中を清水を集めて静かに流れていた辻沢川もその上流の開発により中流では僅かの雨で洪水なり、下流では中田切川の左岸を切りくずすあばれ川に変わりつゝあります。

この辻沢川の両岸に広がる広大な土地に縄文時代草創期から現在に連なる各年代の多くの遺跡が連続してあります。

はるか昔原始人達が清水が岸の草を洗いながら流れる川のほとりに獲物を追い、草や木の実を採集して生活を営み集落を形成した人類の長い歴史を語る台地なのです。

大正 15 年鳥居龍藏、八幡一郎博士の「先史及原始時代の上伊那」の発表以来研究が進められ  
辻沢でも西村光広さんによって山形と楕円の押形文土器片が発見され、昭和 28 年には友野良一先  
生によって縄文中期から古墳時代までの住居址が発掘調査されました。又近年開発にともなう分  
布調査が進められ、かなり大きな遺跡が密集してある事がわかって来ました。

この辻沢の山間部にまで本格的な開発の波が押し寄せて来たのは 15 年程前からです。今まで受  
継がれ再び造る事の出来ない文化遺産を壊すことなく、出来るだけ多く次代に伝える事は、現代  
に生きる私達の当然の義務ではないでしょうか。

6 月 23 日地元を示された、この度の馬住が原工業団地造成計画の用地は、辻沢遺跡群の重要地  
区が含まれており、昭和 50 年市議会 6 月定例会において、福沢衛議員による保存問題が質問され、  
さらに同年 12 月定例会においては、林幸文議員により辻沢遺跡等の遺跡保存と新興住宅地問題が  
質問され、座光寺市長は史跡公園か自然保護区域としての保存を検討するとしたところでありま  
す。

縄文時代草創期に、早期の遺物が出土し、土師器須恵器の時代までの遺物出土があり、更に、  
森林や、道、川を含めて全体の地形がそのまま残されているというこの辻沢川兩岸は、史跡公園  
構想や自然保護区域としてその目的に答え得る場所ではないでしょうか。

昭和 45 年会結成以来、駒ヶ根博物館を初めとして多くの先生方の御指導をいただいて調査を  
続けてまいりましたが、保存という問題で、今程危機を強く感ずる事はありません。

馬住が原の工業団地造成にあたりまして、別紙地図にお示しする最重要地区だけは、少なく  
とも削り取ったり埋め立てたりしない様、特段の配慮がされ原始相の残る美しい自然と由緒ある  
歴史を護り調和ある開発がされます様陳情申し上げます。

昭和 59 年 8 月 30 日

駒ヶ根市長 殿

辻沢遺跡群研究会

代表 北沢雄喜

吉沢文夫

田中清文

## 第Ⅱ章 遺跡の環境

### 第1節 位置及び地形・地質 (第1・2・3図参照)

辻沢南遺跡は、駒ヶ根市赤穂福岡字馬住ヶ原 14 番地代に所在する。国鉄飯田線福岡駅の南西方向、約 1 km の丘陵上に位置する。

駒ヶ根市は、三つの地区から成り、天竜川をはさんで東側南部に中沢地区、東側北部に東伊那地区、西側に赤穂地区があり、当遺跡は赤穂地区の最南端に位置している。

伊那谷は、諏訪湖より流れ出て太平洋達州灘へと流れ続く天竜川が開折した地帯で、その天竜川の支流となる各一級河川の内、特に中央アルプス山系から東流する河川は「田切地形」を形成している。辻沢南遺跡は、中田切川の左岸段丘面上及び辻沢川の右岸段丘面上に立地する。段丘は中田切川との比高差 45～50 m を持ち、海拔標高は 680～690 m を測る。段丘面は天竜川に向かって平均 5～6° の傾斜を示している。地目は、畑地が主で、南・北・西側は林地、東側には畑と宅地が分布している。

遺跡地の地質は、表土下 50～60 cm より厚さ 2～3 m のローム層が分布し、このローム層は P m-IV (御岳第四軽石層) から新期テフラ層である。地表付近では風成のローム(ソフトローム)であり、下部では水成のロームである。

ローム層の下には段丘堆積物が発達し、当遺跡地の段丘は扇状地段丘で、この堆積物は西側の山体から供給されたものである。

### 第2節 歴史的環境 (第1・2図参照)

第1図及び第2図を参照されるとお分りの様に、第1図は第2図を集大成したものであります。辻沢遺跡群研究会が作成された分布図は、現在の名称である辻沢南遺跡(第2図中9・13-17)を地点別に把握され、信憑性が高いものであります。

さて辻沢南遺跡を取りまく歴史的環境ではありますが、前述の辻沢遺跡群研究会の編集・発行による「辻沢遺跡群」(1974年)も参照して記述しますと、第1図47は辻沢南(縄文)、48-馬住の原(縄文・平安)、46-辻沢北(縄文・弥生)、155-川頭(縄文)、156-辻沢丸山(縄文)、157-辻沢窪(縄文)、158-辻沢原(縄文)、159-辻沢経塚(歴史)、45-大原南(縄文)、108-駒ヶ根工業高等学校(平安)、109-垣外(縄文)、107-十二天(縄文)、110-栗園(縄文?)、49-筒沢(縄文)、50-南原(縄文)、105-蟹沢(縄文)が周辺に分布しております。

各々の遺跡の出土遺物等については、別表「辻沢遺跡出土遺物一覧」を参照ねがいますが

辻沢南遺跡においては、前説のごとく赤穂地区の最南端に位置し、自然環境にめぐまれ、さらに縄文時代草創期・早期・中期・後期・晩期の各時期の遺物、古墳時代の土師器、奈良～平安時代の灰釉陶器が出土するという長い時代に互り生活した古代人・祖先の遺跡であります。



第1図 辻沢南遺跡位置図及び周辺遺跡分布図(昭和55年1月29日)

第2圖 江沢町遺跡分布圖



江沢遺跡群出土遺構遺物一覧

昭和48年1月30日現在

調査番号	遺跡名	地所	遺構遺物	備考
1	計 表 1	白地穴塚	(編)「甲」山形、埴内形粘土器 (陶) 須恵器	
2	" 2	白 地	(編)「高」式土器一十数 (中) 加賀科式土器、石器	
3	" 3	白 地	(編)「甲」埴内形粘土器 (中) 加賀科式土器、(埴内) 須恵器 (陶) 須恵器、土器等	比沢第1号13、14号住居地
4	" 4	白 地	(編)「甲」埴内形粘土器 (中) 加賀科式土器、打撃石器、石鏡 " 式土器一具 (赤) 土器1中台式土器 (赤) 土器式土器、須恵器、石鏡、石鏡	
5	鳥住の原 1	白地穴塚	(編)「中」加賀科式土器	遺失
6	" 2	赤良段丘	(編)「甲」埴内形粘土器	
7	" 3	赤良段丘	(編)「中」加賀科式土器	
8	" 4	赤 良	(陶) 土器、須恵器、赤良 作印物 1	昭和29年3月20日発掘調査 比沢第2号住居地 遺
9	" 5	白地穴塚	(編)「中」加賀科式土器 作印物 2	比沢第5号1、2号住居地
10	" 6	白 地	(陶) 須恵器、砂鉄、砂石 等	比沢第13号住居地 比沢第23、4、5号住居地
11	" 7	白 地	(編)「中」加賀科式土器 (陶) 須恵器等	
12	" 22	白 地	(編)「甲」加賀科式土器 埴内形粘土器 須恵器、打撃石器 作印物 2 石鏡 (陶) 土器、須恵器、須恵 器等	昭和45年10月発掘調査 比沢第7号住居地
13	" 34	白 地	(編)「中」加賀科式土器 作印物 3 石鏡 (赤) 土器等	比沢第45号住居地
14	鳥住の原 2	赤 良	(編)「赤」A型土器一具 " 埴内形粘土器、石鏡 (中) 加賀科式土器 打撃石器	鳥住の原
15	" 33	白地穴塚	(編)「中」加賀科式土器、石鏡 石鏡、くぼみ石 (陶) 土器、式土器 (陶) 須恵器	
16	" 34	白 地	(編)「甲」埴内形粘土器、 埴内形粘土器、 須恵器式土器 (中) 加賀科式土器、石鏡 石鏡、石鏡、石鏡	山の神
17	" 35	白 地	(編)「中」加賀科式土器 大蛇石等	
18	比 沢 第 1 号 段 丘	赤 良	(編)「中」加賀科式土器 (編)「石」石鏡、石鏡 (古) 土器等 作印物 1 (陶) 須恵器	比沢第1号古墳 比沢第1号塚
19	比 沢 第 1 号 段 丘 段 丘	赤 良	(編)「甲」須恵器、埴内形粘土器 石鏡、A型土器一具、石鏡 (中) 加賀科式土器、石鏡、 石鏡、土器、石鏡 (陶) 大蛇石土器 (陶) 須恵器	
20	比 沢 第 1 号 段 丘	白 地	(編)「中」加賀科式土器 打撃石等	
21	" 2	白 地	(編)「中」加賀科式土器 打撃石等	
22	" 3	白 地	(編)「中」加賀科式土器	

調査番号	遺跡名	地所	遺構遺物	備考
23	" 4	白 地	(編)「中」加賀科式土器 作印物 2	比沢第17号住居地
24	" 5	赤 良	(編)「中」加賀科式土器 大蛇石等	
25	鳥 住 の 原	赤良段丘	(編)「中」加賀科式土器	
26	" 前 段 丘	赤良段丘	(編)「中」加賀科式土器	
27	" 下 段 丘	赤良段丘	(編)「中」加賀科式土器 須恵器、石鏡 石鏡 (陶) 式土器	比沢第15号住居地
28	鳥 住 の 原	白地穴塚	(編)「中」加賀科式土器 (陶) 石鏡	須恵器
29	大 塚 1	白 地	(編)「中」加賀科式土器 石鏡、石鏡、石鏡、 須恵器石等	前々段工藤森内 大塚 1
30	" 2	白 地	(編)「中」加賀科式土器 (陶) 須恵器、須恵 (陶)	
31	大 塚 2	白 地	(編)「甲」埴内形粘土器、赤良山式土器 赤良山式土器、赤良山式土器 (中) 埴内形粘土器、赤良山式土器 赤良山式土器 (中) 加賀科式土器 作印物 6 (赤)「高」赤良山式土器、マツノ (赤) 加賀科式土器 作印物 2 須恵器	前々段中前上段岡内 大塚 2 昭和48年6月7日発掘調査 前々段遺跡第3、4、5、6、7 号住居地 前々段遺跡第1、2号住居地
32	聖 武 段 丘	赤良段丘	(編)「高」大蛇石土器、石等	
33	赤 良 7	赤良段丘	(編)「中」加賀科式土器 (陶)	
34	大 塚 第 3	白 地	(編)「前」大蛇石土器 (中) 加賀科式土器、石鏡、 打撃石等 (赤)「高」赤良山式土器	昭和47年7月発掘調査 大塚第3号 中前 大塚第3号
35	" 中	白 地	(編)「中」加賀科式土器 (赤)「高」赤良山式土器	昭和47年7月発掘調査 大塚第3号 中前 大塚第3号
36	" 北	白 地	(編)「中」加賀科式土器 打撃石等 (陶) 須恵器 (陶)	昭和47年7月発掘調査 大塚第3号
37	鳥 住 の 原	白地穴塚	(編)「甲」埴内形粘土器 埴内形粘土器 須恵器式土器 赤良山式土器 作印物 3	比沢第13号住居地
38	" 2	白地穴塚	(編)「甲」作印物 作印物 1	比沢第4号住居地
39	十 二 天	赤良段丘	(編)「中」加賀科式土器 (陶) 須恵器、須恵 器、打撃石等	
40	雲 舟 入 山	赤 良	(陶) 土器、須恵 器、須恵器、石鏡、 石鏡、石鏡、石鏡	
41	鳥 住 の 原	白 地	(編)「甲」須恵器、石鏡、石鏡 (中) 加賀科式土器	
42	十 二 天	赤良段丘	(編)「中」加賀科式土器 土器等 作印物 1	比沢第15号住居地 今大塚内
43	鳥 住 の 原	白地穴塚	(編)「中」加賀科式土器 (中) 打撃石等 (赤) 土器等、須恵器、	

## 第三章 試掘調査概要

### 第1節 調査概要 (第3・4図参照)

馬住ヶ原工業団地及び馬住ヶ原公園造成事業に伴い、昭和61・62年度に計画が予定されるグラウンド造成地区及び周辺約2.4haを調査対象として、台地北東部を基点とし、東西軸に10m間隔でA・B・C・D～N、南北軸に10m間隔で1・2・3・4～31まで主グイを設定し、これに基づき2×2mのグリッドを設けた。この測量作業は(有)伊南測量設計事務所に委託した。

前記のグリッド(2×2m)の内、調査季節の制約等から、B・C-9～20、C-7～9、D～M-6～20までのグリッドとA'-10トレンチの掘り下げ作業を実施するに止まった。

具体的にはC'-7～9、E-6～20、D～M-6、D・F-6・8・10・12・14・16・18・20、B-10・12・14・16・18・20、I-7～10、H-8・10については、グリッド掘り下げ後、断面(西壁及び東壁)の写真撮影及び実測(S=1/20)を行い、G・I-12～16、H-12・14・16、K-7～20、M-7～20、J・L-8・10・12・14・16、A'-10 Trについては、断面写真撮影を行った。また、G・I・K・M-17～20、H・J・L-18・20については掘り下げを行うに止まった。総調査面積は、554㎡。

出土遺物については、グリッド各に一括して取り上げた。

遺構を伴うと考えられるグリッドは、G-6・9、H-8・10、I-7・9、F-6・8、D-8、E-8・9、F-12、C'-9、L-8、A'-10 Tr (以上、住居跡か)、C'-7、C-10・11・12、H-6、I-6・8・12、J-6、M-6、E-6、E-6・7・10・12・15～17、D-14、C-16、L-10、K-8・13～16、M-7・8・10・12、(土壇及び柱穴か)が相当する。

(小原晃)

## 第Ⅳ章 出土遺構及び遺物について

### 第1節 遺構について（主要グリッド・覽表参照）

試掘調査として掘り下げを実施した136個のグリッド及び10m（幅1m）トレンチの中で、遺構が存在すると考えられるグリッドは44個と1トレンチである。

試掘調査であるため、出土遺物・「遺構」の形状等から遺構について記述する制約がある。

**住居跡** 住居跡として確定できるものはC'-9より検出された石囲炉である。一部は攪乱を受けるものの焼土は良好に遺存している。出土遺物は縄文時代中期後半土器片と打製石斧が出土。この外は出土遺物より判別すると、F・G-6、I-7、D・E・L-6、E・I-9、H-8・10、F-12、A'-10 Trの13グリッド（トレンチ含む）は、C'-9の住居跡同様に縄文時代中期後半の土器片、石器片が多く出土する。

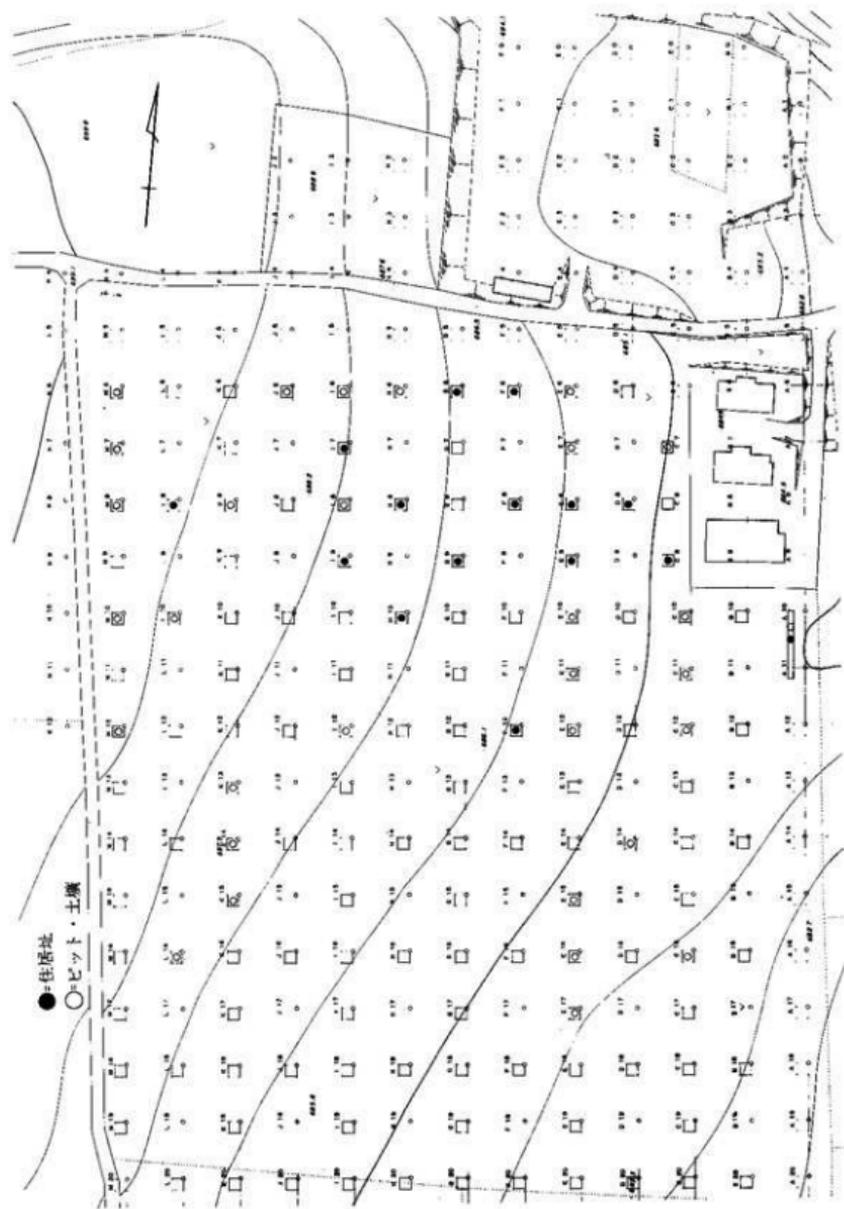
F-8、G-9グリッドは縄文時代中期後半の土器片が主体であるが、縄文時代後期土器片も比較的多いことから、縄文時代中期後期の「住居跡」の存在する可能性が高い。

**土壌** 土壌（規定が不明瞭であるが）が遺存するとして判別したものは、E-6・15、H-6、K-14、A'-Trの5グリッドで、縄文時代後半の土器片、石器片が主に出土している。

**ピット** ピット（柱穴として位置付けられないが）が遺存するとして判別したものは、C'-7、I・J・M-6、E・M-7、I・K・M-8、C・E・L・M-10、C・E-11、C・E・I・M-12、K-13、D-14、K-15、C・E・L-16、E-17、（A'-Tr）の26グリッドで、縄文時代中期後半の土器片・石器片が主に出土している。

### 第2節 遺物について（第4・5図及び主要グリッド・覽表参照）

第4図3は器壁厚1.5cmの網目燃糸文土器片で粗い長石粒と纖維を含む。縄文時代草創期に位置付けられ、栃原岩陰遺跡出土の尖底土器に近似する。1・2はやや大粒の楕円型土器片で、共に纖維と長石粒を含む。1は横長、2は縦長の楕円文。4・5は燃りの甘い燃糸文土器片で、4は粗い長石、5は細かい長石を含む。5は「絡縄体圧痕文土器」片の可能性もある。早期前半に位置付けられる。6は燃りの太くて甘い縄文、7は細くて硬い縄文、8は条痕が施され、8は纖維を含む。早期後半に位置付けられる。9は半截竹管による「龍目文」をもつ。縄文中期初頭。10は綾杉文+平行沈線文+隆帯により文様構成され、横位の蛇行沈線をもつ。粗い長石多し。11~13は平行沈線+隆帯により文様構成され、13は懸垂隆帯に刻みをもつ。11は深鉢形土器口縁部片で、12・13は同胴部片である。縄文中期中葉に位置する。14・15は棒状施工具で縦の条線を施し、14は連弧文と横走沈線文、15は横走隆帯文と横走沈線により文様構成される。14は深鉢形土器口縁部片、15は同胴部片である。19は懸垂隆帯とヘラ状施工具による綾杉文により構成され



第3図 辻沢町遺跡試掘調査グリッド位置図(S=1/1000)



第4図 辻沢南遺跡グリッド出土主要遺物実録図1 (S=1/6)



の突帯+刻み目が付く。12は鉢口縁部、13・14は浅鉢口縁部で、外は深鉢胴部である。23は「壺か注口」胴部片で「J」字状文+縄文が見られる。24は深鉢形土器口縁部片でLR斜縄文の地に、横走沈線を4条施す。25は凹線により渦巻区画を行いLR縄文を施す。26は「注口」土器底部片で「渦巻状」の区画をし斜条線を施す。27は口縁部片でへら先で弧状文を施す。23は堀之内式系、24～27は加曾利B1～2式系。28は深鉢、29は深鉢底部片で28は網底(1越え、1滑りか)である。堀之内式系。

30～36は、縄文時代晩期から弥生時代中期初頭にかけての深鉢形土器胴部片で、30～34は条痕文、35は条痕文+波状文、36は「綾杉」状文が施される。30～34は東海地方水神平系(天竜川流域-林里)、35・36は中部地方庄之畑系に位置付けられる。

石器については、数多くの打製石斧、石錘、石鏃等が出土しているが図示できないので、写真図版IXを参照されたい。特に、A'-10 Trから出土している黒曜石製ポイント、チャート製石鏃は縄文草創期～早期に位置付けられる可能性が強い。

出土物については、若干の遺物(土器)を掲載できただけであり、また時間的制約があり実測図において土器断面を図表示できなかったことを御了承いただきたい。(小原晃一)

## 第V章 総 括

辻沢南遺跡は総面積で5～60000㎡に及ぶ大規模な遺跡である。今年度試掘調査の対象(昭和61年度着工グラウンド造成事業区域)とした18000㎡は、全体の約1/3であり、さらには掘り下げ面積は544㎡(136グリッド×4㎡、1m×10mトレンチ)でわずか3%にすぎない。

にもかかわらず、A'-10 Trからは縄文時代草創期～早期(今から約8,000年前)の上器・石器をはじめ、縄文時代中期後半(今から約4,000年前)の住居跡状遺構13ヶ所、土壇・ピット状の遺構が存在する個所が30ヶ所、縄文時代後期初頭～中葉(今から約3,500年前)の住居跡状遺構2ヶ所が遺構として遺存する可能性が大きい。(計45ヶ所)

出土遺物は、前述を含め縄文時代草創期・早期・中期初頭～中葉～後半・晩期～弥生時代中期という約6,000年にも及ぶ長い時代の古代人の生活遺物が出土している。

試掘調査の結果、以上の把握がなされるが、第2・3図を参照願うと、F-8グリッドを中心にした15ヶ所の住居跡状遺構群は、東西方向の農道を挟んで、北側及び北西側にも遺存する可能性が極めて強く、総住居跡数で50軒は下らない縄文時代中期後半～後期にかけての大規模な集落址として位置付けられる。特に、縄文時代後期の住居址が遺存するとすれば、駒ヶ根市内からは初の発見であり、八幡原・塩木・七免川・青木北遺跡との関連が注目される。

また、A'-10 Trから出土している縄文時代草創期・早期の遺物は、市内では北ノ原Ⅲ遺跡(旧石器時代)・舟山遺跡に次ぐもので、横山A・養命酒遺跡との関連上、非常に重要視されてよい遺物である。

この様に、辻沢南遺跡は長い時代に亘る古代人の生活の跡が顕著で、出土遺物が豊富で、さらには、中田切川と辻沢川に挟まれた良好な自然環境を保存する市内でも有数な遺跡として位置付けられる。昭和61年度にはグラウンド造成という開発が目前であるが、市民及び福岡区民の意向と開発側との真摯な検討・協調・協力等が最大の課題であると考えます。(小原晃一)

让沢南道跡試掘調査主要グリッド一覧表

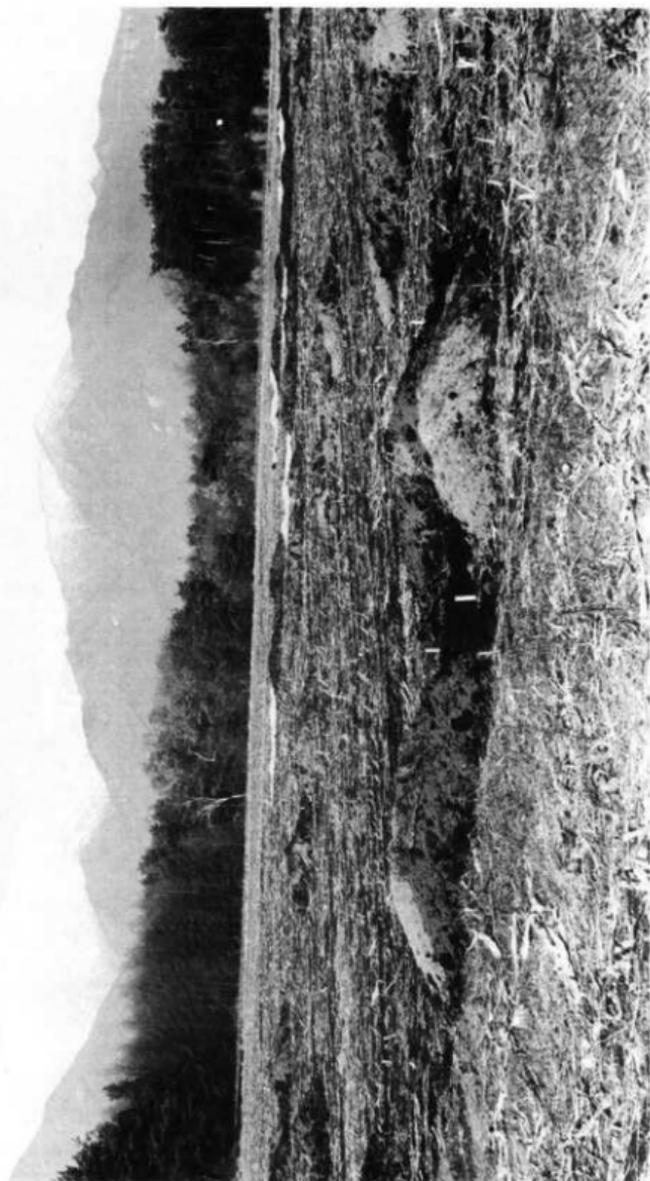
〈注〉主要グリッドとは、出土遺物及び遺構を伴うものである。

G-W	深さ	基盤	遺構	痕跡	出土遺物	
B-10	49	(ローム)		有	J・中後半18点、J・後9、円版3、竪1、円石1	
	12	37	ローム		無	J・中後半12点、J・中葉1、硬・割1
	16	58	ローム		無	硬・割2点、J・前1
C'-9	30	ローム	住居跡	有	J・中後半13点、打・斧1、粘・割1	
C-10	10	30	ローム	ビット	無	J・中後半29点、J・後2、打・斧米1、黒・割3
	11	30	ローム	ビット	無	J・中後半29点、円版3、打・斧1、黒・割1、硬・割1
	12	43	ローム	ビット	有	J・中後半20点、円版1、打・斧1、黒・割3、硬・割4
	13	58	ローム		無	J・中後半20点、円版1、スクレ1、硬・割1
	14	48	ローム			J・中後半2点、打・斧米1
15					J・中後半3点、打・斧1、硬・割1	
16	40	ローム	ビット	無	J・中後半6、打・斧1	
D-6	6	36	ローム		有	J・中後半15点、J・後2点、円版3、打・斧米1
	8	61	(ローム)	住居跡	有	J・中後半13点、J・後13点、硬・割3
	10	51	ローム		有	J・中後半35点、J・中葉11、J・後36、黒・割1
	12	55	ローム		無	J・中後半40点、円版3、打・斧1、打・斧米2、黒・割1、硬・割1
	14	46	ローム	ビット	無	J・中後半11点、硬・割4、緑・割1
16	42	ローム		無	J・中後半1点	
E-6	4	44	ローム	土 横	無	J・中後半33点、J・後2、円版1、打・斧米1、硬・割3
	7	54	ローム	ビット	無	J・中後半83点、J・後4、円版8、打・斧1、打・斧米1、硬・割10
	8	45	(ローム)	住居跡	無	J・中後半37点、円版5、打・斧2、打・斧米3、部・成・弥生
	9	59	(ローム)	住居跡	無	J・中1、J・中後半120点、J・中葉4、円版7、硬・割3、黒・割1、J・地-弥1
	10	70	ローム	ビット	無	J・中後半27点、J・後3、円版3、黒・割2、硬・割3
	11	74	ローム	ビット	無	J・中後半11点、黒・割3、硬・割1、敲1
	12	67	ローム	ビット		J・中初1、J・中後半114点、中葉1、円版5、黒・割1、硬・割1
	13	58	ローム		無	J・中後半26点、円版3、硬・割2
	14	43	ローム			J・中後半8点
	15	51	ローム	土 横	無	J・中後半7点、打・斧1、変雑1
16	47	ローム	ビット	無	J・中後半7点	
F-6	50	(ローム)	住居跡	有	J・中後半89点、J・後3、円版5、打・斧米1、黒・割2、硬・割4	
	8	55	ローム	住居跡	無	J・中葉2、J・中後半132点、J・後17、黒・割5、硬・割1
	10	78	ローム		無	J・早1、J・中葉2点、J・中後半69、円版3、打・斧米3、硬・割4
	12	(28)	(ローム)	住居跡	無	J・中後半31点、硬・割2
	14	48	ローム		無	J・中後半11点、硬・割1、粘・割1
16					J・中後半23点、円版1、硬・割3、泥灰1	
G-6	62	(ローム)	住居跡	有	J・中後半26点、J・後5、打・斧米2、黒・割2、硬・割1	
	7	52	ローム		無	J・中後半46点、円版1、黒・割2、硬・割5
	8	56	ローム		無	J・中葉2、J・中後半38点、J・後3、打・斧1、硬・割2
	9	62	(ローム)	住居跡	無	J・中葉11点、J・中後半115、J・中葉4、J・後9、石鏃1、石包丁1
	10	58	ローム		無	J・中葉4点、J・中後半181、J・中葉8、円版9、J・後6、石包丁1、J・地-弥1
	11					J・中後半19点、石鏃米1、硬・割2
	12					J・中後半10点、打・斧米1
	13					J・中葉1、J・中後半16点、打・斧2、打・斧米1
	14					J・中後半23点、硬・割2、円版3、打・斧1、黒・割1
	15					J・中後半59点、J・中葉2、J・後4、硬・割1
16					J・中後半81点、J・後3、円版1、硬・割1	
17					J・中後半6点、打・斧米1	
18					J・中2点、黒・割1、硬・割2	
H-6	41	(ローム)	土 横	有	J・中後半36点、円版2、黒・割1	
	8	55	ローム	住居跡	無	J・中後半31点、円版4、打・斧1、硬・割2
	10	38	(ローム)	住居跡	無	J・中後半15点、J・後1、円版2、打・斧1、硬・割1
	12					J・中後半9点、硬・割2
	14					J・中後半20点、円版3、打・斧2、打・斧米1
16					J・中後半7点、磨り石1、硬・割1	

G-No.	深さ	発 見	遺 構	掘 削	出土 遺 物
1-6	53	ローム	ビット	有	J・中後半24点、J・後4、泥灰1、円版1
7	44	(ローム)	住居跡	無	J・中後半26点、黒・刹1
8	34	ローム	ビット	無	J・中後半4点、硬・刹1
9	57	ローム	住居跡	無	J・早1、J・中後半56点、石鏡1、黒・刹1、J・後3、J・中業2
10	51	ローム		無	J・中後半3点、硬・刹1、粘・刹1、打・斧1
11					J・中後半1点
12			ビット		J・中業1点、打・斧未1、黒・刹1
13					J・中後半4点、硬・刹1、打・斧1
14					J・中業1点、打・斧未1、黒・刹1、J・晩-後1
15					J・中後半51点、J・中業1、J・後2、打・斧3
16					J・中後半6点
20					J・中後半24点、石棒1
J-6	43	ローム	ビット	無	J・中後半6点、打・斧未1、黒・刹1、硬・刹1
8					J・中後半10点、打・斧1
10					J・中後半4点、黒・刹2
12					J・中後半5点
14					J・中後半3点
16					J・中後半6点
K-6	38	ローム		無	J・中後半6点
8			ビット		J・中後半10点、硬・刹2
9					J・中後半11点、磨・斧1、黒・刹1
10					J・中後半5点、打・斧未2
11					J・中後半11点、敲打1
12					J・中後半10点、粘・刹2、円版2
13			ビット		J・中後半6点、円版1、J・中業2
14			土 城		J・中後半34点、円版3、チャート1、打・斧未1
16					J・中後半13点、J・中業1
17					硬・刹1
18					硬・刹1
20					ホーンフェルス製2、砂岩割片1
L-6	40	ローム		無	J・中後半20点、J・後2、円版1、打・斧未2
8			住居跡		J・中後半42点
10			ビット		J・中後半4点、打・斧1、打・斧未1、黒・刹1
16			ビット		J・中後半4点
M-6	35	ローム	ビット	無	J・中後半9点、円版2
7					J・中後半10点、打・斧未1
8					J・中後半7点、打・斧1、硬・刹1
9					J・中業1点、J・中2、黒・刹1、硬・刹1
10			ビット		J・中後半10点、石鏡1、黒・刹1
11			ビット		J・中後半12点、円版1、黒・刹1
13					J・中後半3点
A-YI		住居跡			J・早1、J・早2点、J・前5、J・中初1、J・中業1、J・中後半245
#		土 城			J・後11、円版17、黒・刹7、硬・刹7、打・斧1
#		ビット			打・斧未2、粘・刹2、ポイント、石鏡、コア1、スクレ1、敲1、円形打1

(注) 深さの単位はcmである。出土遺物の略称は、下記のとおりでである。

J・早	＝	縄文時代早期土器片	円版	＝	十製円版	粘・刹	＝	粘泥片割片
J・早	＝	早期土器片	打・斧	＝	打製石斧	泥・灰	＝	灰泥岩割片
J・前	＝	前期土器片	磨・斧	＝	磨製石斧	ビス	＝	ビスエスキュー
J・中初	＝	中期初葉	打・斧未	＝	打製石斧製作時欠損品	玄碑	＝	玄碑緑岩
J・中業	＝	中期中葉	黒・刹	＝	黒曜石割片			
J・中後半	＝	中期後半	硬・刹	＝	硬砂岩割片			
J・中末	＝	中期末葉	敲	＝	敲打器			
J・後期	＝	後期	スクレ	＝	スクレイパー			
J・晩-先	＝	晩期-先生	粘・刹	＝	粘板岩割片			

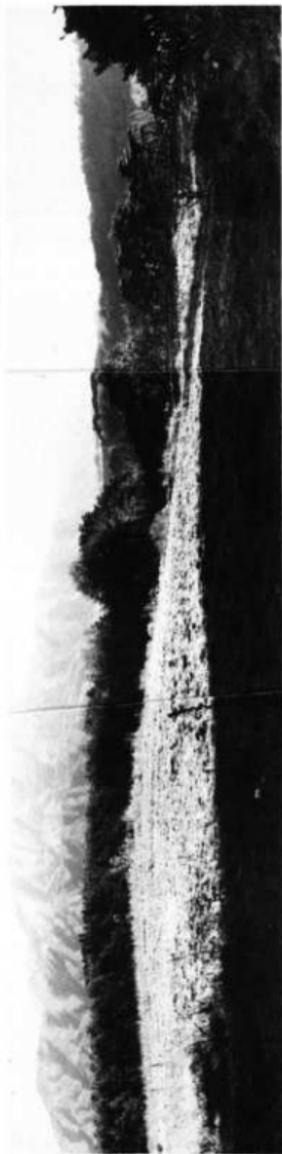


写真II

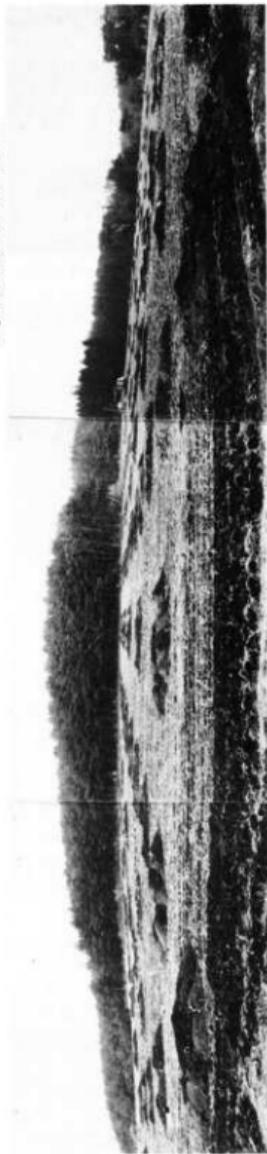
1. 江沢南遺跡近景(北西より)



2. 江沢南遺跡南側傾斜・テラス(北西より)



3. 江沢南遺跡全景(東より)



1. 試掘調査風景(南東より)



2. 試掘調査風景(南より)



3. 試掘調査近景(東より)



4. 試掘調査近景(東より)



5. 試掘調査グリッド設定風景(北より)



6. ホーリング調査風景(東より)



7. 試掘調査終了風景(南西より)



8. 試掘調査終了風景(南西より)



写真Ⅳ

1. D-6グリッド北壁断面



5. H-6グリッド北壁断面



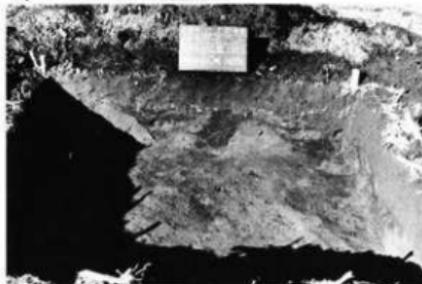
2. E-6グリッド北壁断面



6. I-6グリッド北壁断面



3. F-6グリッド北壁断面



7. J-6グリッド北壁断面

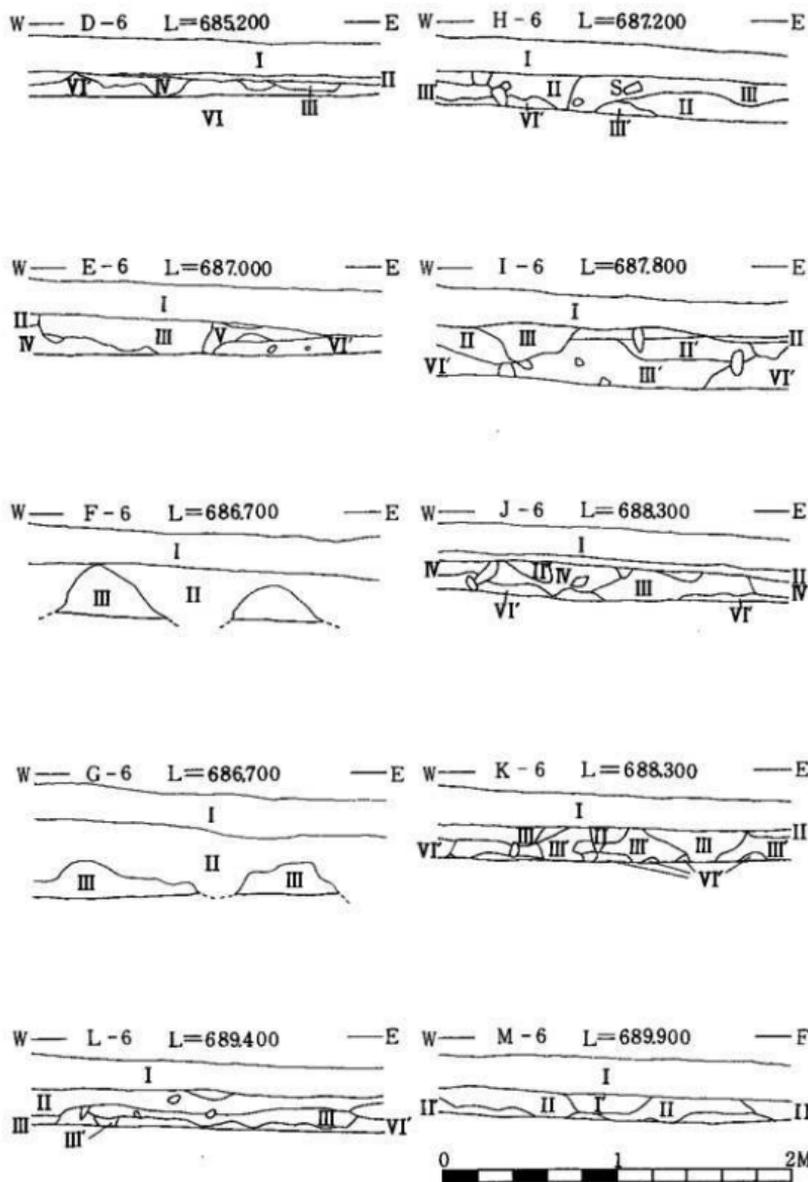


4. G-6グリッド北壁断面



8. K-6グリッド北壁断面



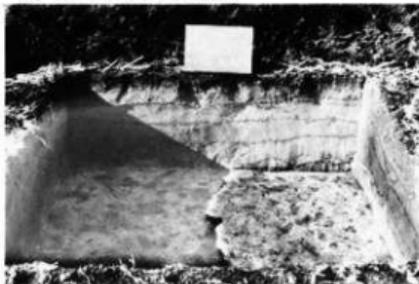


第7図 辻沢南遺跡主要グリッド断面図1

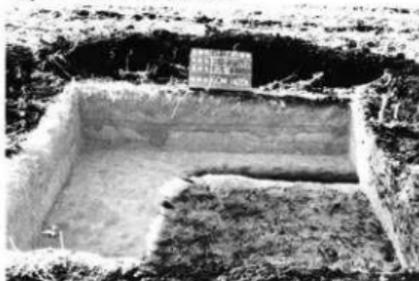
1. E-7グリッド北壁断面



5. E-11グリッド西壁断面



2. E-8グリッド西壁断面



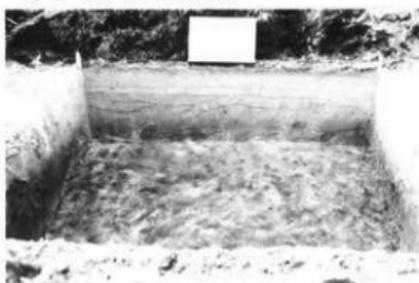
6. E-12グリッド西壁断面



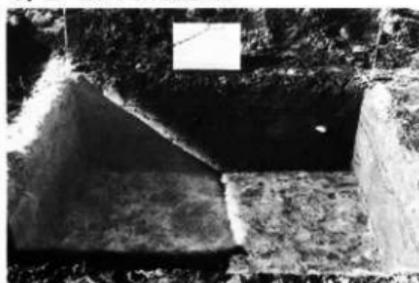
3. E-9グリッド西壁断面



7. E-13グリッド西壁断面

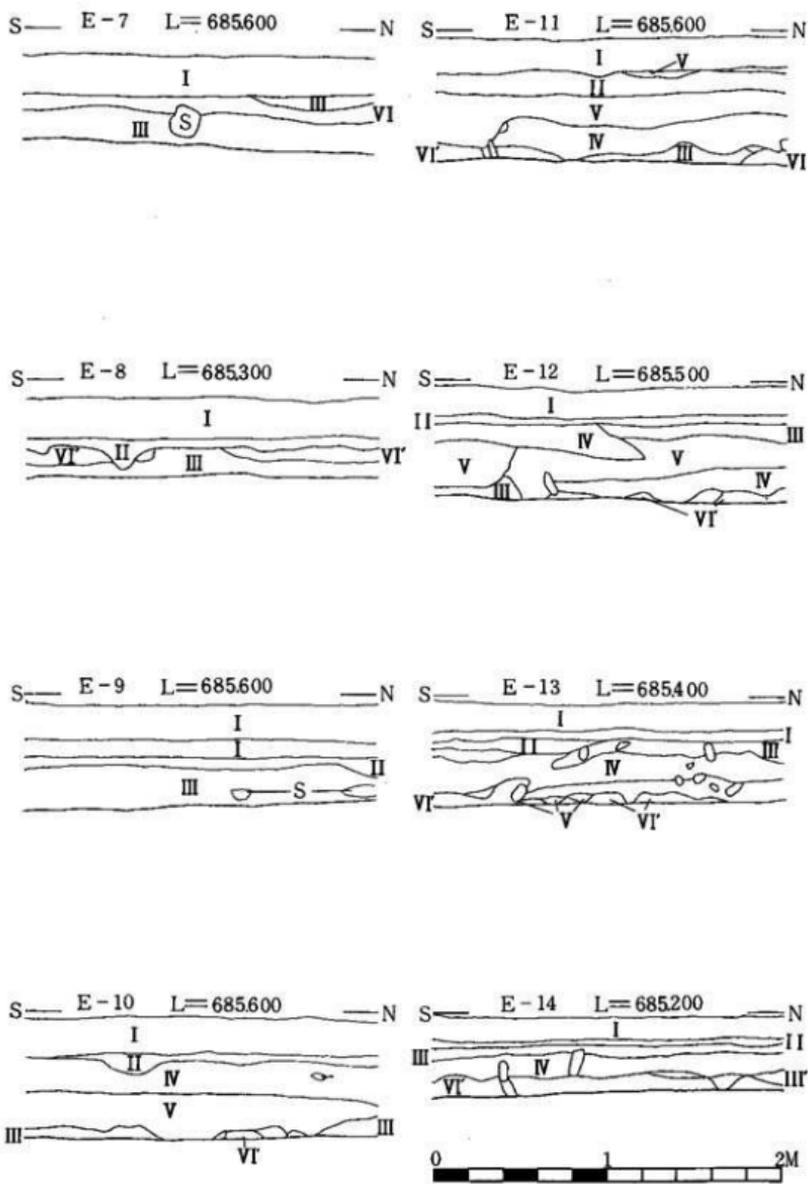


4. E-10グリッド西壁断面



8. E-14グリッド西壁断面





第8図 辻沢南遺跡主要グリッド断面図2

1. E-15グリッド西壁断面



4. E-18グリッド西壁断面



2. E-16グリッド西壁断面



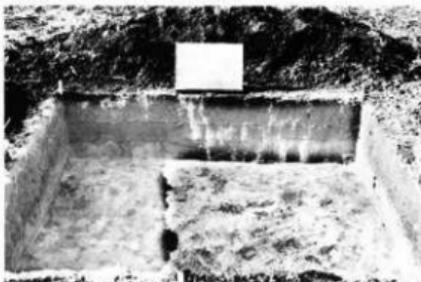
5. E-19グリッド西壁断面



3. E-17グリッド西壁断面



6. E-20グリッド西壁断面

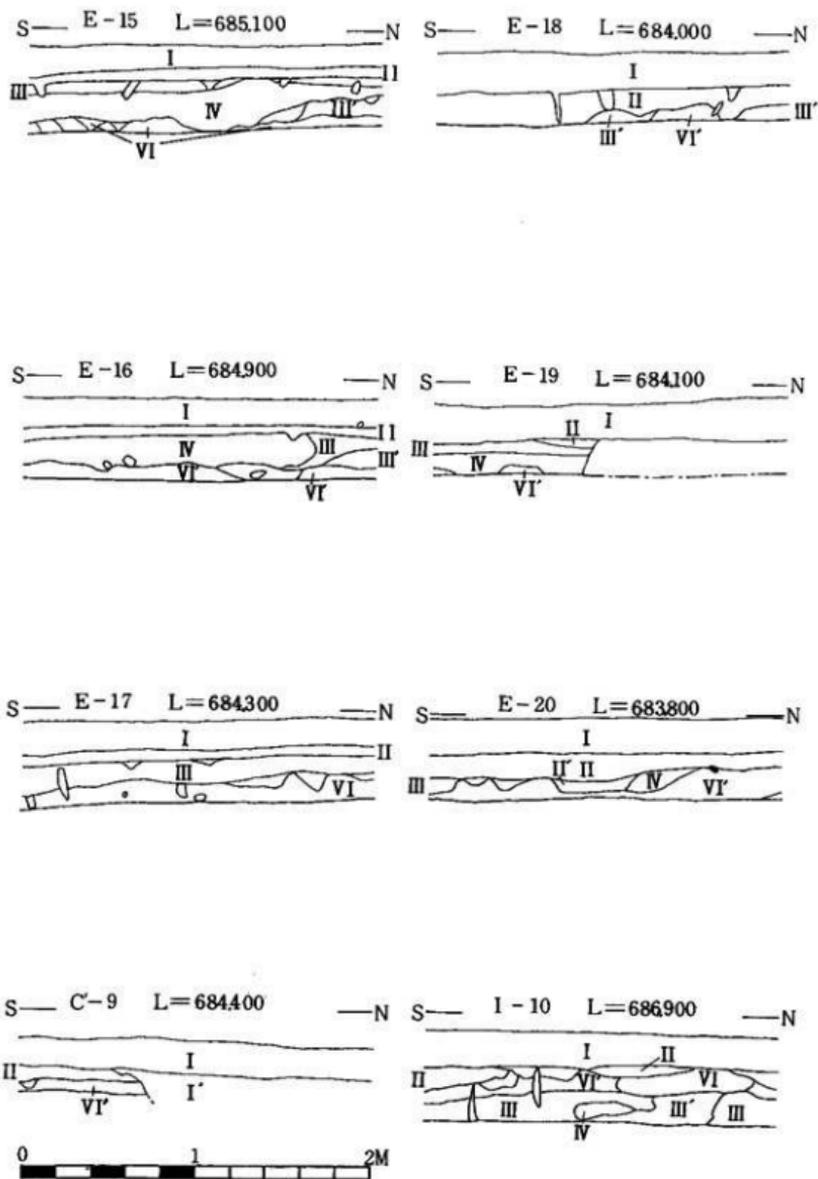


7. C'-9グリッド西壁断面及び右門护検出状態



8. A'-10トレンチ





第9図 辻沢南遺跡主要グリッド断面図3

1. L-6グリッド北壁断面



5. M-9グリッド西壁断面



2. M-6グリッド北壁断面



6. M-10グリッド西壁断面



3. M-7グリッド西壁断面



7. M-11グリッド西壁断面



4. M-8グリッド西壁断面



8. M-12グリッド西壁断面



写真Ⅷ

1. I-10グリッド(住居跡及び礎検出状態)



2. B-12グリッド(敵擾乱状態)



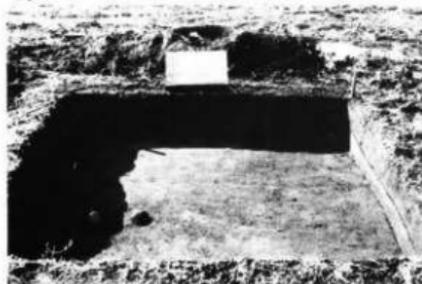
3. K-8グリッド(礎及びピット検出状態)



4. C-12グリッド(敵擾乱状態)



5. C-11グリッド(土器底部出土状態)



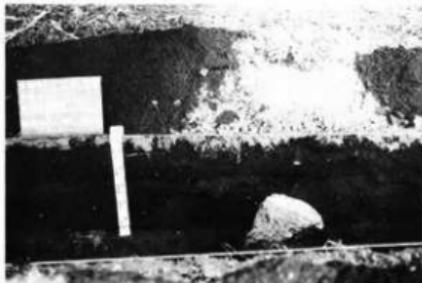
6. K-7グリッド(擾乱状態及び住居跡検出状態)



7. A'-10トレンチ東壁断面(I)



8. A'-10トレンチ東壁断面(II)



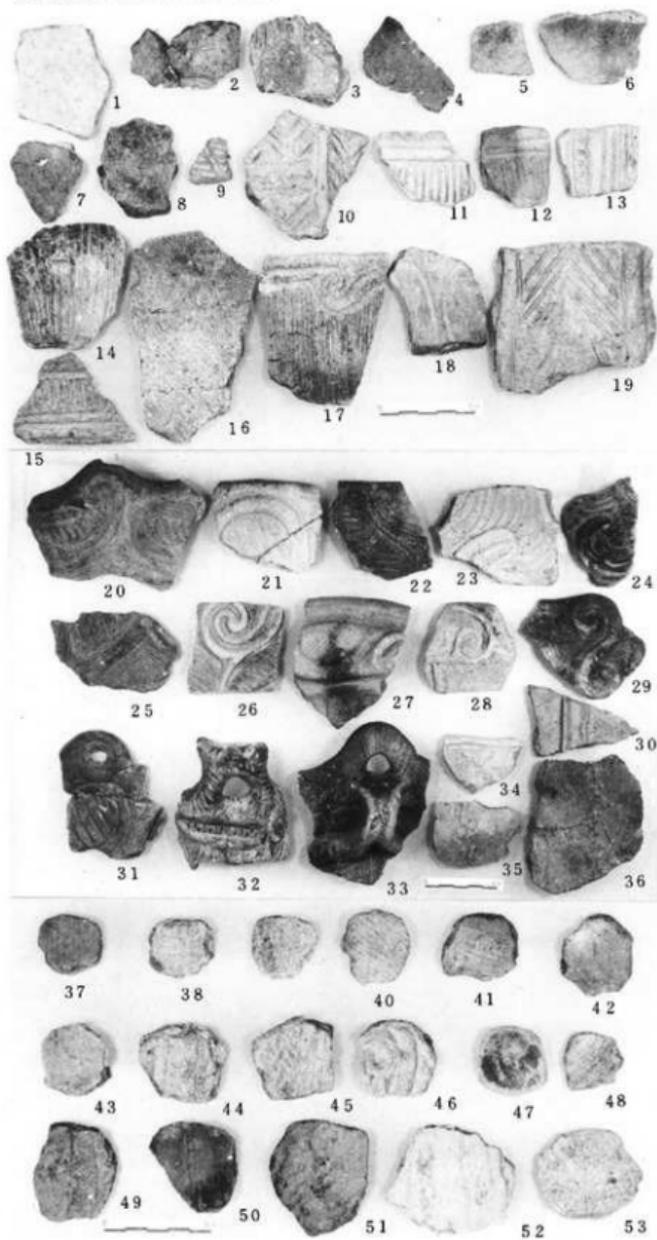
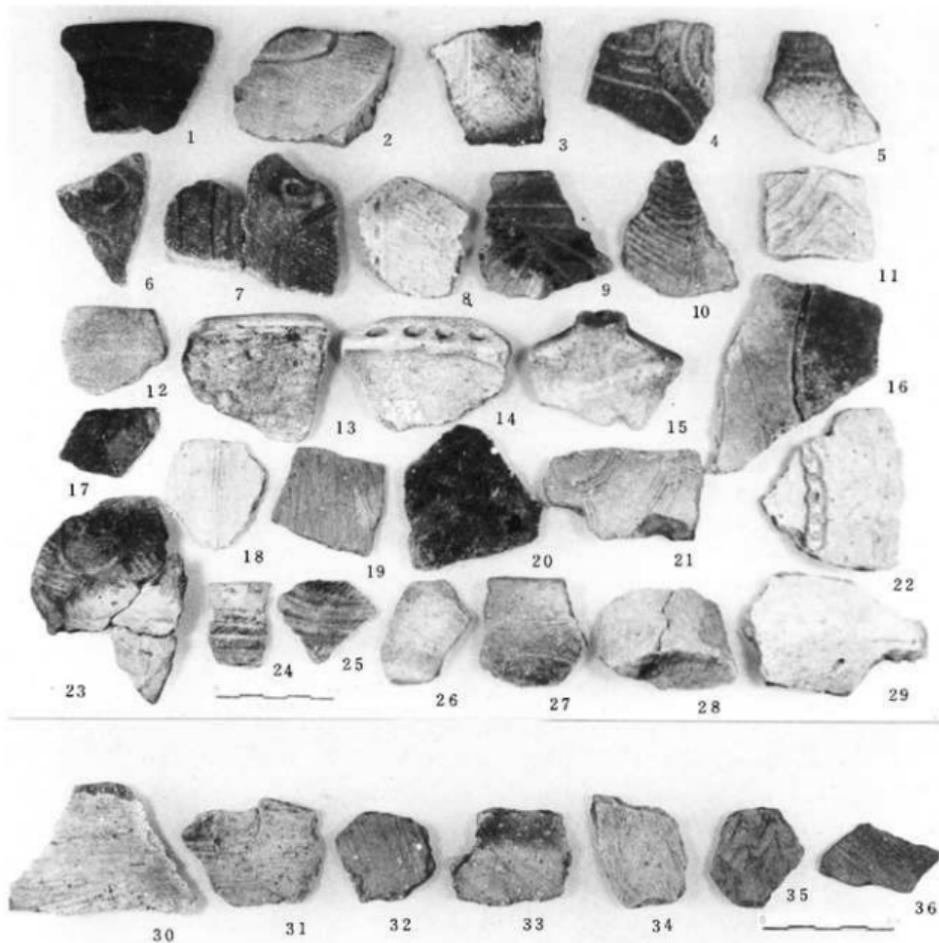
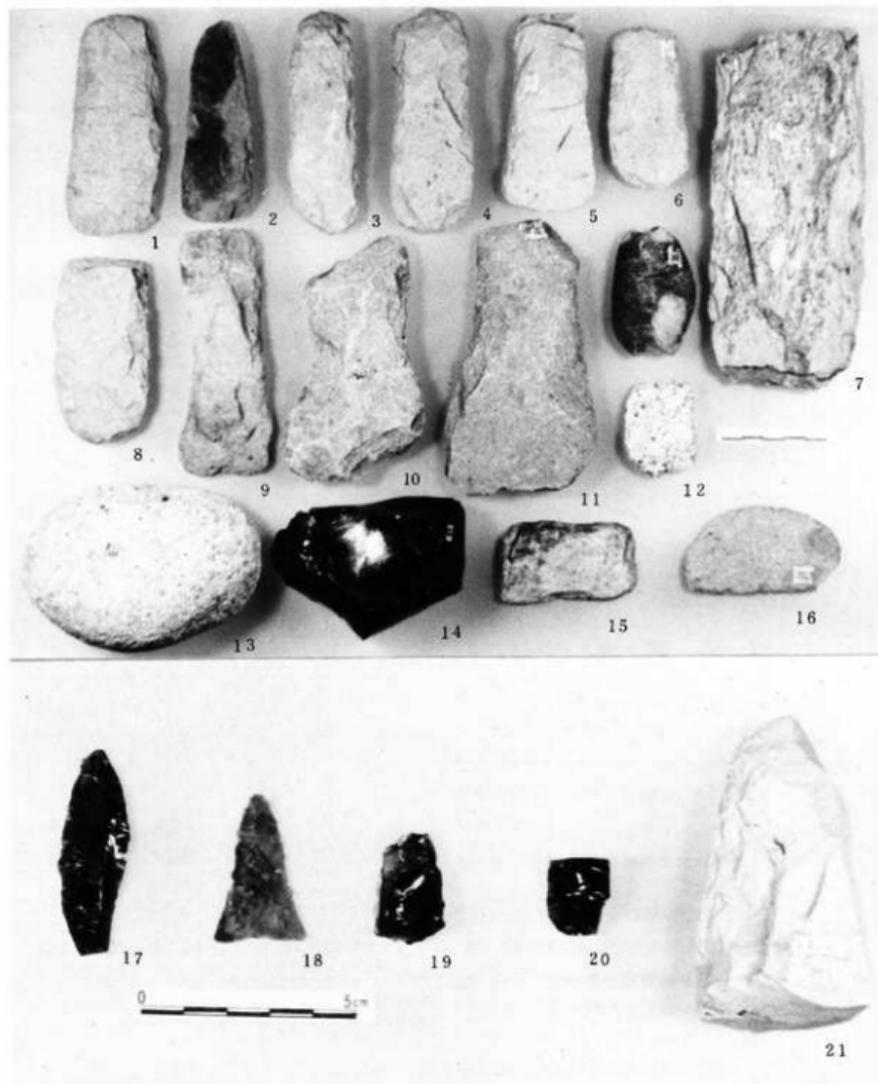


写真 X

辻沢南遺跡主要グリッド出土遺物 2



辻沢南遺跡主要グリッド出土遺物 3



## 辻 沢 南 遺 跡

「馬住ヶ原工業団地及び馬住ヶ原  
公園造成事業」に先立つ試掘調査

---

昭和 61 年 3 月 29 日 印刷

昭和 61 年 3 月 31 日 発行

編 集 駒ヶ根市埋蔵文化財発掘調査会

駒ヶ根市上穂南 2 番 15 号

市立駒ヶ根博物館内

(TEL) 0265-83-2719

発 行 駒ヶ根市教育委員会

駒ヶ根市赤須町 20 番 1 号

---

印 刷 ほおずき書籍株式会社

長野市中越 293 番地